

C O N
T A I
N E R



未来を受け止める、アートホームの「器」

アートホームの家づくりは「器」を創るという発想。

建てたその瞬間だけでなく、35年後もいいものでありたい。

理想は何もない六面体のハコだ。

お気に入りの家具を配したり、海外で見つけたイスを置いてみたり。

そのとき、そのときで「楽しめる家」が変わってもいいと思う。

住む人の“プラス”を受け止められるのが、アートホームの家だ。

アートホームという会社もまたひとつの器。

六面体の器に、これからどんなプラスが加わるのか。

家づくりからはじまり、家具、雑貨、飲食、旅行、福祉……。

おそらくもっともっと暮らしにコミットしていこう。

器の未来。考えるだけでワクワクする。



常に器の可能性を拡げていくこと。
それが、先頭を走り続ける使命

技術部設計課 遠藤 文子

もともと私はアートホームのつくる家が好きだったということもあります。いくつかほかの工務店で設計の仕事をしてきましたが、ここでは無理に何かに合わせる必要もなく、自分がつくりたい家＝アートホームの家として提案することができます。お客さまと直接打合せをして設計ができるのも、難しい部分はありますが、楽しいこと。お客さまの意見や口には出せない思いを汲み取ることで、本当の意味で快適な家をつくることのできるからです。

私たちが手がけるのは家という器、そこに彩り

を与えるのはお客さま自身です。だから設計者は器のことだけ考えていればいいかというと、そうではありません。「器に合う何か」をイメージすることで、初めてくらしに輝きを与える器を築くことができます。だから私自身も、照明や家具のセミナーに参加し、設計以外のことも積極的に勉強するようにしています。

以前の会社ではどこかほかに目標とする会社がありました。でも、アートホームにはそれがありません。先頭だからです。先頭を走り続けること。ちょっと大変だけど、やりがいは大きいですよ。



DM や広報誌の制作を通して
アートホームの色をカタチにする作業

広報企画 阿部 愛子

パンフレットやDM、ホームページといった直接目にふれるものから、相談にみえたお客さまにお出しするお茶、その器、BGM まで。お客さまはさまざまなものからアートホームの「色」を感じ取ります。私の仕事はそうした「色」をカタチにすること。1枚の広告であれば、写真のセレクト、キャッチコピーはもちろん、文字のフォントや大きさ、背景色まで、一つひとつが「色」を表現する構成要素となります。2011年からアートホームで家を建てた方にお配りする広報誌「nodo」を発行していますが、冊子の構成からデザイン、撮影、

お施主さまへのインタビューなど、制作に関わるすべてをひとりで担当しています。未経験の部分も多く本当は大変ですが、自分のやりたいことを納得いくまでとことんやらせてもらっています。私自身はまだまだ経験が浅いですが、こうしたプロジェクトを任せてもらうことができ、大きなやりがいを感じます。最初に、会社の「色」という言葉を使いましたが、色を決めるのは実は私たち一人ひとりなのかもしれません。十人十色の個性が、アートホームの「色」を作るんだと、最近思うようになりました。

CONSTRUCTION 工事

平面から空間へ。建築現場で工事の進行等を管理



いかに美しく「納める」か。
リレーのアンカーとしての務め

技術部工事課 宮越 悠貴

工事課は安全・品質・工程・原価管理が主な仕事です。設計図を元にどのように組み立て、どう仕上げるか。段取りを行い、実際の現場で陣頭指揮を執ります。同じ面積の土地でもレベル（高さ）などの条件は現場によって変わってきます。設計段階でどんなにそれらを計算していたとしても、実際組み立ててみるとディテールにズレが生じることがあります。僕たちの仕事は、現場でいかに「納める」かということ。どんなに優れたデザインでも納まりが悪くと美しくは見えません。柱一本の狂いが、やがて全体に影響します。各工程でしっ

かりと作業状況をチェックし、お客様のご要望に臨機応変に対応しながら、「納める」のも工事課の使命です。

アートホームという会社をひとつの器だとすれば、経営者が描く「設計図」に対してどう「納める」かは、ここに働く一人ひとりのパフォーマンス次第です。ひとつの器を築くために部署を越えて話し合ったり、新しいやり方にチャレンジしたり。型にはまるのではなく、一人ひとりが考えて「納める」ということ。それが家を建てる上でも、会社でも大事だと思います。

SERVICE 営業

資金計画からアフターまで唯一無二のパートナー



自分が心の底からおすすめできる
「嘘のない」商品売りたい

営業部 / プランナー 四日市 久美

お客さまとアートホームの接点として家づくりをサポートする仕事です。初めてオープンハウスに来ていただいてから、土地探しや資金計画にはじまり、家を建てた後も何年にもわたってお施主さまとおつきあいは続きます。

アートホームに入社する前は、まったく畑違いでホテルの仕事をしていました。たまたま住宅建築に興味を持ち、転職をしたわけですが、ココに決めたのは「嘘のない会社」だと思ったから。どんなにかっこいいデザインも、構造が伴わなければ単なる張りぼて。壁に隠れた見えない部分にこ

そビルダーの真価が問われます。

ときどき思うことがあります。私はたまたま家を扱っていますが、家具でも、雑貨でも、服でもよかったんじゃないか。自分が本当にいいと思うモノを生活に取り入れることで、その人が幸せになってくれたら…。それが一番の願いです。だから設計段階などでモヤモヤすることがあったら、担当者となつて話し合います。当たり前のことかも知れないけど、私が提案するのは100%おすすめできる家。それってきっとプランナーとして幸せなことだと思う。

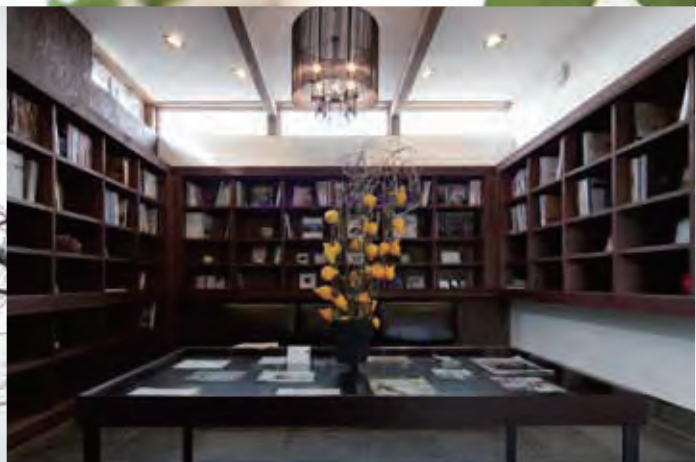
企業をつくるのは「ひと」
器の中の化学反応を見届けたい

代表取締役社長 石川 誉興

平成2年に会社を設立して二十年余り経ちますが、「良いモノを安く」を原点としながら、「本当に必要とされる市場を創り続けていく」ために、業界の常識にとらわれないことを実践してきました。引き渡し後のアフターサービスに重点を置いたのもそのひとつ。設立10年目からは「感謝祭」を行い、アートホームで家を建てたお客さまを毎年ご招待しています。

よく言われることですが企業を構成するのは「ヒト・モノ・カネ」、順番もこの通りだと思います。社員にはアートホームという器の中で、さまざまな経験をしながら自身の器を大きくしてほしいと願っています。「一人三役」という言葉を私はよく使います。設計課は設計ができればいい、工事課は工事管理ができればいい、というのではなく、一人で設計・工事管理・営業のどれもみることができるようなマルチな感覚を養ってほしい。今後は住宅建築だけでなく、福祉やサービスなど、さまざまな業態に「器」を拡げていってほしい。そのときに必要なのはこれまでにない力を持った人材です。アートホームの器を、皆さんの手で彩ってください。





- 1990.2.15 北見市末広町に資本金 500 万円で
有限会社アートホーム設立
- 1990.5.1 一級建築士事務所登録
- 1992.5.1 株式会社へ組織変更し
資本金 1000 万円に増資
- 1992.5.22 北見市三輪に事務所を新築・移転
- 1999.9.30 資本金 1500 万円に増資
- 2002.4.15 北見市栄町 C S ビルに本社移転
(現北見本社所在地)
- 2002.7.11 宅地建物取引業者免許登録
- 2005.4.6 千歳市信濃に千歳営業所開設
- 2006.4.6 千歳営業所を千歳支店に改組
- 2006.4.6 アートホームホームウェル
(リフォーム専門部門) 設立
- 2008.4.6 千歳支店一級建築士事務所登録

- 2009.6.17 千歳市長都に千歳支店、新築・移転
- 2009.6.29 資本金 2000 万円に増資
- 2009.10.16 特定建設業免許取得
- 2009.10.16 千歳支店社屋
「きらりと光る北の建築賞」受賞
- 2010.11.10 mini-prot「グッドデザイン賞」受賞
- 2011.7.5 TH大賞リフォーム部門
エコロジー賞受賞

名 称 株式会社アートホーム
 代 表 者 代表取締役 石川誉興
 設 立 平成2年2月15日
 資 本 金 2,000万円
 業 務 内 容 住宅設計・施工、
 住宅増改築・リフォーム、
 店舗の設計・施工

www.k-arthome.co.jp

